

松本市基幹相談支援センター会議・研修会報告

<p>会議・研修会名 令和8年度第1回 くらす・つながる地域部会</p>	<p>開催日：令和8年4月21日（火） 時間：10:00～11:45</p>
<p>参加者構成機関名 医療法人青雲会倉田病院(欠)、医療法人芳州会村井病院(欠)、医療法人和心会松南病院、ケ・セラ社会福祉士事務所、松本市保健所保健予防課、障がい者相談支援センターあいほっと、指定一般相談支援事業所ハートラインまつもと、松本市役所 障がい福祉課 松本市障がい者基幹相談支援センター(事務局)</p> <p style="text-align: right;">計9名</p>	

<p>会議内容</p> <p>1. 活動報告や課題について</p> <p>1. 地域移行プロジェクトの報告</p> <p>松本圏域の地域移行プロジェクトの地域移行にかかわるリーフレットについて共有された。付託事項に基づき、医療機関へのアンケート調査の結果、地域移行にかかわる相談窓口等が分からない等、アクセスにかかわる課題がみられた。そこで、地域移行や退院にかかわる相談窓口等を掲載したリーフレットを作成し、順次関係機関へ周知をする旨の報告がなされた。</p> <p>2. 医療機関より</p> <p>医療機関においては、グループホーム等の空床情報や地域移行に関する情報が届きにくく、個別ケースを通して情報を得ている状況がある。入院まで苦労してきた家族にとって入院が安心できるものであり、退院の際に抵抗感を抱きやすい。入院という選択に至る前の段階から地域生活の支援や見通しを整理すること、退院時の支援のつながりを整理する大切さが共有された。</p> <p>3. 障がい者支援施設より</p> <p>日々の支援対応に追われ、地域移行を中長期の課題として検討する余力を持ちにくい実情がある。一方で、現場には地域移行を進めたい意識を持つ支援者もいるものの、施設同士のつながりが希薄な点もある。その支援者同士がつながり、実践を共有できる機会が重要であると共有された。施設間の情報交換や、好事例・複雑化した事例をとおした学び合いが、今後の取り組みの土台となる。</p> <p>4. 当事者や家族からの声について</p> <p>当事者にとっては、「地域で暮らしたい」という思いがあっても、受け皿や支援体制が見えにくいことが壁となる。家族にとっては、地域移行が安心や安全の低下として受け取られる場合があり、不安の軽減と見通しの共有が欠かせない。今後は、支援者向けの整理を進めながら、将来的</p>

には家族にも届く、届ける情報や機会を整えていく視点が必要である。

II. 各事業所における地域移行にかかわる意見交換

1. 各事業所の現状について

- 地域移行の必要性は共有されているが、現場では日々の支援対応に追われ、地域移行を具体的な業務に落とし込む余力が乏しい。
- 施設からの地域移行も停滞しており、情報交換の場づくりや、実践につながる小さな取り組みから組み立てる必要がある。

2. 地域生活を支える資源の不足

- 入居・入所する施設の所在地から通所先の選択肢が限られることや、住環境面の不備が地域移行の妨げとなっている場合もある。

3. 数値目標と現場実感の接続

- 福祉計画上の成果目標はあるが、現場では数値の意味や背景を十分に読み取りにくい状況がある。
- 数値だけでは行動に結びつきにくく、現場実感や事例と結びつけて理解する工夫が必要である。

III. フォーラムの開催に向けて

今年度の本部会では、従来の整理を踏まえつつ、より広い視点で「地域移行」を扱う必要があるとの認識に至った。

また、国・県・市の障がい福祉計画では地域移行や地域生活支援が重要な課題として位置づけられているが、現場では人員不足や日常業務の多さ、家族の不安、地域資源の不足などにより、実践に結びつきにくい状況が続いている。よって、令和8年度のフォーラムは、制度や計画の背景、成果目標の意味、地域移行の実際、好事例や複雑化した事例を整理し、支援者が「なぜ地域移行への取り組みが必要か」と「何をすべきか」を具体的に考えられる場として整理する必要がある、という流れで議論が進んだ。

IV. 次回部会で検討する内容

- フォーラムの開催に向けた具体的な検討をする

以上